

Rich ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより
第77号

ななえ古写真物語

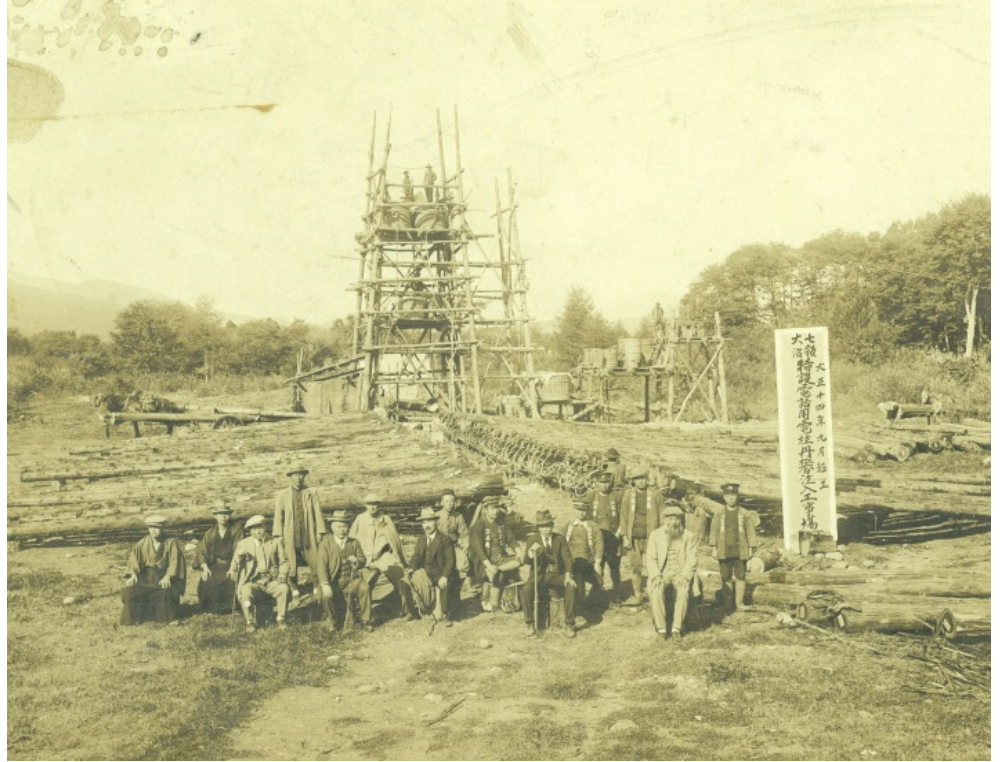
VOL. 77

電話のはなし

電話用電柱円鑿注入作業

大正14年

大沼地区



近年、電話の発達は何ものすごいスピードで進んでいるものの、使う側がその機能や利便性を発揮させることが難しく感じるのは、私だけでしょうか。

携帯電話が普及し始めてから、現在スマートフォンが主流となりつつあるこの時代では、各家庭で、固定電話を設置していない家も在るのかも知れません。それほどまで、通信の世界はインターネットの発達に伴い、我々の生活に欠かせないものとなってきました。

一方で、街中に目をやると、20年ほど前まではあちこちに設置されていた電話ボックスが、いつの間にか姿を消していたり、公共施設においても公衆電話が取り外されていたりと、時代の流れを感じます（当館も去年、公衆電話を撤去させて頂きました）。もし、子どもたちに黒電話を見せても、電話と認識しない時代がすぐそこまで来ているのかもしれない。

そんな電話の話ですが、七飯町では明治33年3月から開通したと「七飯町史」に記載されているものの、詳細な記録があまりなく、その後、大正15年に電話交換台が設けられ、3、4軒の加入だったのが、昭和25年には64軒に増加したと記されている位です。

こんな身近なツールとして、現在の生活に欠かせない発展を遂げた電話についての記録は、今後当館においても、しっかりと調査しなくてはならない課題となりそうですので、七飯町の電話の歴史に詳しい方は是非、連絡頂きたいと思います。

さて、当館で所蔵する数少ない電話に関する写真の一枚が上に掲載したものです。何やら中央に檣のようなものを組み、その前には横たわった丸太が何本も並んでいる様子が写っております。右側に設置した看板には「大正十四年九月竣工 七飯大沼 特設電話用電柱円鑿注入工事場」と記されているので、大沼地区における電柱設置作業の様子の一断面のことがわかります。

また、大勢の人達が集合していますが、拡大して確認したところ最前列に座っているスーツ姿の5人のうち、左から2番目に座している人物は、大沼地区の開墾と発展に尽力した宇喜多秀夫だということがわかりました。おそらくは、電話の敷設事業に関して彼が深く関わっていたのかもしれませんが、大沼地区が早くから電話や電灯が普及したのも、こういった地域の有力者たちの働きがあったからかもしれません。どうやら、電話の歴史は奥が深そうです。

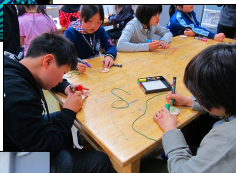
6月の予定

23日

友の会の皆さんが、当館野草園の整備をして下さいました。

当館には3か所の野草園のほか、リンゴやブドウを育成している見本園があり、昨秋に積もった落ち葉の除去や立木の設置、冬囲いの撤去などをして下さいました。これらの管理は職員だけでは到底できるわけもなく、毎年春と秋には友の会の皆さんのご協力を得ています。

これから秋までの間100種にも及び草花が、来館者の目を楽しませてくれることと思います。友の会の皆様、本当にありがとうございました。



26日

本年度のジュニア探検クラブが始まり、27名の仲間たちで活動することになりました。

まずは、館長から一人ずつ、会員証が授与され、学芸員からは、活動にあたっての約束などの話をしました。まだ慣れていないので、子どもたちはちょっと緊張気味。しかし、その後、名札づくりをしたり自己紹介をしたりしているうちに、段々と打ち解けたようで、昼食時には楽しく笑っている声や遊んでいる姿も見られました。参加会員の皆さん。これから一年よろしくお祈いします。

鉄道模型展示

4/29から5/5までの期間、当館ロビーにて「七飯町模型クラブ」の皆さんが、鉄道模型のジオラマ展示を開催して下さいました。会期中は親子連れなどで賑わっていました。七飯町模型クラブの皆さん、準備から撤収までお疲れ様でした。



1	日
2	月
3	火
4	水 夜の博物館
5	木
6	金
7	土
8	日
9	月
10	火
11	水
12	木
13	金
14	土
15	日
16	月
17	火
18	水
19	木
20	金
21	土 古文書教室
22	日
23	月
24	火
25	水
26	木
27	金
28	土 ジュニア探検クラブ
29	日 横津の植物観察会(予定)
30	月

※6月の休館日はありません。

コケの花?

先日、東大沼を歩いているときに偶然見つけた。花といっても正確には孢子体というらしい。春は思いがけない出会いがあっておもしろい。



編集後記 ~tawagoto~

昨年はフィールドに出る機会を作れなかったと反省している中、お客様に「ホームページに掲載している植物や風景の写真が素敵ですね!」とのお褒めの言葉を頂きました。何気に目にとまったものを撮影しているだけのものが、誰かの心に響いているのかと思うと、とてもうれしい気持ちになりました。なので、今年はそれを理由の一つにして、フィールドを駆けまわろうかと企んでいます・・・。

やっぱり、ダメですかね? (やまだひさし)

Pichart

~ピチャリ~

第77号

平成26年5月20日 発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail: rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp